

女性・平和・安全保障(WPS) に関する我が国の取組

外務省総合外交政策局女性参画推進室

2024年1月

● 2000年に平和・安全保障の文脈に「女性」を関連づけた初めての安保理決議第1325号が採択された。

● 紛争下において女性が受ける不均衡な影響(インパクト)を認識するとともに、女性は紛争下の性的暴力からの保護の対象であると同時に平和・安全保障の主体者と認識。

● 性差によるニーズを踏まえつつ、紛争予防・紛争解決・和平交渉・平和維持活動・平和構築・ガバナンスの全ての段階の意思決定及び主体として女性の平等で十全な参画を要請。

● 人道支援、復興におけるジェンダー主流化、女性の人権の保護及びジェンダー平等の促進を要請。

(以降、2019年までに合計で10本の関連決議が採択された)



- ✓ 日本は決議履行のため、2015年に第1次「行動計画(2016-2018年)」、2019年に第2次「行動計画(2019-2022年)」、2023年に第3次「行動計画(2023-2029)」を策定。

第3次行動計画 内容

主な取組の柱	内容	具体策の例
1. 女性の参画とジェンダーの視点に立った平和構築の促進	平和・安全保障のあらゆる段階に女性の参画とジェンダーの視点での平和構築の取組。	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 和平交渉・合意への女性の参画支援 ➢ 平和維持活動等への女性の参画促進 ➢ 女性・女児のエンパワーメント支援等
2. 性的及びジェンダーに基づく暴力への対応と防止	紛争下の性的暴力およびジェンダーに基づく暴力の防止、法の支配の定着、被害者・被害当事者(サバイバー)支援	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 紛争下の性的暴力防止の専門家チームへの拠出 ➢ 国際刑事裁判所への拠出やJICAを通じた法の支配定着に向けた支援 ➢ 国際機関やJICAを通じて紛争影響国や脆弱国での性的およびジェンダーに基づく暴力防止の取組 ➢ 被害者・被害当事者(サバイバー)への支援等
3. 防災・災害対応、気候変動に関する女性の参画とジェンダー主流化	災害対応・気候変動、緊急支援や人道支援、その後の復興におけるジェンダーの視点での取組	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 国際機関やJICA、NGOなどを通じ、被災国や災害脆弱国へのジェンダーの視点での災害・防災・気候変動に関する支援を実施 ➢ 国内の防災会議やジェンダーの視点での災害施策の整備と実施等
4. 国内のWPS促進のための取組	政府関係省庁の人材育成と組織の能力強化及び女性に対する暴力撲滅のための取組	<ul style="list-style-type: none"> ➢ WPSやジェンダーに関する研修の実施、女性に対する暴力を許さない組織作りの取組強化のため担当官や窓口を設置 ➢ 外国人女性を含めた国内の全ての女性の人権保障に向けた取組など
5. モニタリング・評価	行動計画のモニタリング・評価・見直しを効果的に実施するための枠組みの構築	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 女性・平和・安全保障の専門家で構成される評価委員会の設置 ➢ 3年目に中間報告書を作成 ➢ 政府は評価委員会の提言も踏まえ、6年後に行動計画の見直しを実施

日本の行動計画の特徴

- 決議の柱ではなく、主な取組を構成の柱にして構成
- 紛争関連の事態のみならず自然災害・気候変動にも対応している
- 国内のWPS関連対応能力強化と女性に対する暴力撲滅の取組を強化する

上川外交におけるWPSの推進

- ・令和5年9月20日 「女性・平和・リーダーシップ」シンポジウム(米国)
- ・令和5年9月21日 WPSフォーカスポイント・ネットワーク ハイレベル・サイドイベント(米国)
- ・令和5年10月30日 「女性、平和、安全保障における男性の参加」シンポジウム(米国・ビデオメッセージ)
- ・令和5年11月13日 「WPS+イノベーション」シンポジウム(米国)
- ・令和5年12月13日 「G7広島サミットフォローアップ:GEAC報告書発表シンポジウム ジェンダー平等と女性のエンパワメントに向けて」(東京・ビデオメッセージ)
- ・令和5年12月13日 「WPS+イノベーション～難民支援・人道支援の現場から～」意見交換会(スイス)
- ・令和5年12月16日 笹川平和財団主催WPSに関する日本・インドネシア外相對話
「なぜ、女性の視点が必要なのかー日本・インドネシアの女性外相が語るー」(東京)
- ・令和6年1月 欧州訪問(ウクライナ、ポーランド、フィンランド、スウェーデン、オランダ)
- ・令和6年1月 米国連邦下院議員等との意見交換(米国)



「WPS+イノベーション」シンポジウム(米国)での基調講演

女性・平和・安全保障(WPS)パネルディスカッション: 国際平和と安全保障への女性の参画促進に日本はどう貢献できるか? ～G7 GEAC・WAW!フォローアップイベント～

1. 概要

- 日時:12月13日14時30分～16時00分
- 第1部では日本のWPSの取組について、政府、市民社会とPKOの関係者から報告を聞き、第2部ではGEACのメンバーでもあるWPSやジェンダーの専門家を交え、平和構築と災害対応の全ての取組における女性の参画と女性のリーダーシップの促進を念頭に、日本の貢献の在り方と世界におけるWPSの取組の方向性について議論。

2. 第1部のポイント

- 外務省から、第3次WPS行動計画の策定、WPS分野の最近の日本の取り組み、日本のWPS行動計画の特徴等について説明した上で、日本が国際機関やJICA、NGOと連携しつつ様々な国においてWPSの視点を取り込んだ支援を行っていることを紹介。
- 笹川平和財団、防衛省、JICA、NPO、元自衛官(元PKO司令部要員)から、日本ならではのWPSの取組について報告。女性軍人が現地の女性からヒアリングすることにより、女性たちの警戒心を解くことができ、情報収集に有益だったこと、女性自衛官が災害対策本部にいたことで、女性の生理用品の追送など、女性の避難生活環境の改善に繋がった事例等が報告された。



女性・平和・安全保障(WPS)パネルディスカッション：
国際平和と安全保障への女性の参画促進に日本はどう貢献できるか？
～G7 GEAC・WAW!フォローアップイベント～

3.第2部のポイント

メレン・バービア・ジョージタウン大学女性・平和・安全保障研究所長

- 日本にはWPSに対する強いコミットメントがあり、WPSをリードする並外れた可能性がある。特に気候変動や自然災害によって安全保障が脅かされる中、同分野に大きく寄与できる。

マキシム・ウィナト UN Women 東・南部アフリカ地域事務所長

- 和平合意のほとんどが失敗するのは、最初から女性が関与していなかったからである。和平プロセスにおいては、女性の参画やリーダーシップが重要。

ピーター・ロバーツ駐日オーストラリア大使館首席公使

- 自然災害発生時、相対的に女性と子どもは死亡する可能性ははるかに高く、性別によって不釣り合いな影響が出る。災害に関する行動計画や対応は、女性の経験と知識を活かすべき。

目黒依子上智大学名誉教授・WPSに関する行動計画評価委員会委員長

- 平和と経済と安定は不可分であり、ジェンダー主流化をあらゆる観点から力強く推進することが重要。

